

令和5年度 学校関係者評価報告書

令和5年度の総括として業界関係者2名、在校生保護者1名の各評価委員、本校職員4名により学校自己評価を基に学校関係者評価委員会を開催しました。会議の概要、学校関係者の意見と学校の取り組みは次の通り。

I 概要

1. 日時

令和6年8月7日(水)14:00～16:30

2. 場所

専門学校 広島自動車大学校

3. 参加委員

外部関係者(学校関係者評価委員)

- ・一般社団法人 広島県自動車整備振興会 指導部 部長 前川 清隆 様
- ・トヨタカローラ広島株式会社 サービス部 技術課 部長 平尾 憲吾 様
- ・在校生保護者 1名

学校関係者

- ・本校職員 4名 (豊原、富田、金本、藤井)

4. タイムスケジュール

14:00～ 開会挨拶

14:10～ 本校イメージ動画視聴

14:15～ 校内見学

14:40～ 学校関係者評価委員会会議

事前に配布している学校自己評価その他関係資料を基に、委員からの学校評価(特に評価点3点未満の項目について) 質疑応答、意見交換を実施

II 学校関係者評価委員からの質問と学校からの回答と取り組み（議事録）

1. 教育理念の項目について

〔委員からの質問〕

- (1) 特に問題点はない。

（学校側から）

- (1) 教育理念については、変わらず建学の精神、教育目的を基に、技能資格取得訓練を通して、まずは学生が心、すなわち考え方、心の持ち方を明確にし、具体的な行動の訓練を学校生活の中で取り入れる。つまり、お客様を意識した言動の取れる人材、更には社会人としての基本的な事柄を身につけ、実社会での即戦力化を目指した人材育成を行うとともに進化する技術及び企業ニーズに柔軟に対応していく。
本校の理念や建学の精神を掲載した学生心得を入学時に保護者に送付し、毎年夏休みに実施している保護者懇談会にて保護者等に周知している。
学校の将来構想については、令和5年度に第三次中期事業計画（5年）を定めました。

2. 教育活動・教育環境・学習成果の項目について

〔委員からの質問〕

- (1) 企業との連携による実践的な教育訓練とは。
- (2) 2級コースのインターンシップも実施されたのですね。
- (3) 職員研修は引き続き行われていますか。
- (4) 教育環境の項目の広島県「みんなの減災」とは。
- (5) 実習車に電気自動「サクラ」を導入されたのですね。
- (6) 2級の合格率がR4年は100%でしたが今回は97%ですがその要因は？

（学校側からの回答）

- (1) 職業実践専門課程の授業として、低圧電気の取り扱いやHV特有の知識、最新技術の紹介等をトヨタカローラ広島様に委託し、ガス・アークの溶接作業を株式会社ロイヤル様に委託しています。
また、職業実践専門課程の授業には該当しませんが、今年もスズキ自販広島様、マツダグループ様、いすゞ自動車様、広島トヨタ自動車様、日産自動車様と多くのディーラーからの多彩な授業を実施して頂き学生達も刺激になったようです。今後もより多くのディーラーへ授業依頼をして参ります。
- (2) 1級コースのインターンシップは必修ですが、5年度は2級コース2年生2名の学生から希望がありトヨタカローラ広島様、スズキ自販広島様でインターンシップを行っていただきました。
- (3) 教員の研修としては自動車整備振興会が行う研修ではスキャンツール研修、オートエアコン研修、整備主任者法令研修に参加しJAMCAが行う研修ではスキルアップ研修、新技術車両診断研修に参加し自動車メーカー及びディーラーが行う研修にはマツダ自動車様、スバル自動車様、日産自動車様の研修に参加致しました。授業の空き時間の兼ね合いがありますが、研修の案内があれば可能な限り参加するようにしています。
また、研修を受けた職員が受講後にその内容を、いかに他の職員に展開・共有をしていくかが今後の課題でもあります。
- (4) 消防署による火災避難訓練は行っていたのですが、5年度は広島県による「みんなの減災」一斉地震防災訓練を行うよう要請があり、動画の鑑賞及び避難訓練を実施し地震にも備えました。
- (5) 本校は日産自動車様の広島県での指定校に認定されており定期的に教材や実習車を提供して頂いており、今回は本校で初めての電気自動「サクラ」を貸与して頂きました。授業のみならずオープンキャンパスでも利用しています。その他スズキ自販広島様、いすゞ自動車様からもエンジンを贈呈して頂いており、各自動車メーカー様及びディーラー様から支援していただき感謝しています。
また、電気自動「サクラ」で使用可能な外部診断器を昨年同様に「電動車等の整備に対応した設備・教材の調査事業」に申請し5台無償購入することができ教育環境を整えています。

- (6) 2級コースにおいては5年以上ガソリン・ジーゼルどちらも同一学生が不合格になることはありませんでしたので、2級ガソリン・2級ジーゼルどちらかは合格していましたが今回は同一学生が不合格になってしまいました。

色々な要因はありますが最後まで本気で取り組ませる事ができなかつた事が大きな要因だと思われます。国家試験に限らず各種の資格取得のために模擬試験を行い、点数が悪い学生は放課後の自主勉強を実施することにより学力を上げて合格させてきましたが、放課後の自主勉強を拒否して帰宅する学生が出始め、学校として放課後の拘束力がないため保護者と連絡をとりながら実施しており、放課後の自主勉強のあり方が変わり始めており、過渡期の状態が今回の合格率になったと感じています。

いずれにせよ保護者の協力が無ければ非常に難しい時代背景だと思います。

保護者アンケートでも学生と社会人との違いをメリハリつけて指導して欲しいとの声もあれば、昭和的な教育は止めてもらいたいとの声もあり、教員も非常に指導しにくい時代になったと認識しています。

[企業委員からの意見]

企業内の研修や特に新人研修ではハラスメント的な事に気を付けて行っており、学校は更に大変だと思いますが、自動車大学の卒業生は非常に躰教育が他の学校よりしっかりされており、大変だとは思いますが今まで同様、躰の行き届いた学生を卒業させていただきたいと願っております。

(学校側から)

ありがたいお言葉をいただき今まで同様、また更に企業様に喜んでいただけるよう時代にマッチした指導内容で臨んでいきます。

3. 学生支援

[委員からの質問]

- (1) 進路指導の項目の企業セミナーも開催できたようですね。
- (2) 学生に対する支援で何か変化はありますか。
- (3) 学生の健康管理が2.9ポイントですがどんなことを行っていますか。

(学校側からの回答)

- (1) 48社に参加いただいて開催いたしました、学生が進路を考える上で企業様の生の声を聴く場面は、学生によい影響があると思いますので、今後も継続していきたいと考えますが、今年度は学生数の減少や県外の学生の減少によりお声かけする企業数が減少するかもしれません。
今回参加いただけなかった企業様にも、連絡を取り趣旨をご理解いただいております。
- (2) 学費の支援として教育訓練給付金制度の認定校、高等教育の修学支援新制度の対象校であり、さらには企業奨学金制度を採用する企業を積極的に開拓しており、現在県内外合わせて40社となっておりさらに数社増える予定です。また遠方からの学生支援のために住居費の補助や新しい学生アパートを学校のすぐ近くに建築しました。それと、コロナ禍で中止していたモーターショー見学も交通費学校負担で実施し参加した学生に楽しんでもらいました。
- (3) マスク着用の強制はできませんが毎日のホームルームでの検温は継続して行っています。また登校時、教室や実習室に入室する前の手指の消毒、等を引き続き行っています。学生の食事面に関しては食事への金銭的なこともあり、なかなかインスタント食品を制限することは難しいのですが、ホームルームなどで声掛けは行っております。

4. 学校運営

[委員からの質問]

- (1) 特に問題点は無い。

5. 学生の受け入れ募集

[委員からの質問]

- (1) 入学生の人数が減少していますがどのような対応策をとられていますか？

(学校側からの回答)

- (1) 充足率の向上にむけ、いかにオープンキャンパスに参加してくれる学生数を増やすかが大きな問題です。広報担当者以外に広報の仕事を支援する教員1名をプラスし、R6年度は広報活動を充実させています。また高等学校の進路指導の先生に、より自動車業界を理解してもらうため、許可を頂いたうえで普通自動車、軽自動車、大型自動車、損保会社、自動車検査協会様の求人票を見て頂き給与面や職場環境、福利厚生面など先生達の思い描いている昔ながらの整備士のイメージと、大きく変化していることを説明すると驚かれる先生も多く、整備士だけでなく保険会社や自動車検査協会など幅広い就職先があることにも興味を持っていただく事ができ、整備学校への進路指導の幅が広がる事によるオープンキャンパスへの参加を促して頂けるようになることを期待しています。また、自動車や整備士に興味を持っていただく機会を増やすよう、ホームページやInstagramなどのSNSでの情報発信にも力をいれています。

6. 財務・法令順守・社会貢献

[委員からの質問]

- (1) 地域に対する公開講座・教育訓練の受託を積極的に実施しているかが今回も2点台ですが、なかなか難しい項目ですね。

(学校側からの回答)

- (1) 毎年点数が低い項目ではありますが、公開講座や教育訓練となると難しいですが、府中町との災害時の協力に関するボランティア活動の協力を締結したので、災害時の車に関する事に職員と学生が協力することになりました。毎年4月に行う献血や大掃除での学校横の溝掃除などでも社会や地域に貢献できていると思います。

7. その他の意見交換

[企業委員からの質問]

- (1) 企業奨学金に関してですが、貸与と支援はどちらの希望が多いですか。
- (2) 国の奨学金制度を利用している学生は多いですか。

(学校からの回答)

- (1) 学生としては、リスクの少ない返済支援型が良いようです。
- (2) 国の奨学金制度を利用している学生は資料にもありますように約30%です。様々な企業奨学金制度もありますので、高校生が進路を考える時に金銭的な不安が少しでも解消できればと学校説明会等でもしっかり説明しています。

[保護者委員から学校へ]

- (1) 少子化や人材確保が大変な世の中で、整備士の不足や存続が大変なのだと感じました。自分の子供もこの業界に飛び込んでいくことに不安を感じました。

(学校から)

- (1) 国をあげて整備士不足の解消の為に色々な努力をいただいていますので、本校も頑張っ学生を募集し少しでも多くの整備士を輩出しようと努力しています。
整備士の不足など心配なことが多くありますが、車業界は点検・車検などの国の制度として決められているので、整備士の仕事なくなることはありません。ただ、自動車の技術はかなりのスピードで進歩していますので、日々新しいことを吸収していく努力は必要だと思います。

[自動車整備振興会委員から]

- (1) 人材確保の一環として、「ゼロハンカーレース」に参加する高校生を取材しドキュメントを作成しようと考えています。このドキュメントを見て、中学生が高校に入学する時に車に関する進路を希望してくれたらいいと思って作成しようと思っています。

(学校から)

- (1) 本校で協力できることがありましたら、協力させていただきます。

8. 最後に

[委員から]

- (1) 貴校の学生は優秀で、非常によくがんばってくれています。我々企業側で協力できることがあれば遠慮なく言ってください。
- (2) 子供も学校が楽しいと言っています。無事卒業・資格の取得ができるように今後ともよろしく願いいたします。

III 総評

上記の内容は委員からの質問に対する学校側の回答のみ記載させて頂きましたが、これ以外にも数多くの意見やお褒めの言葉を頂く事ができ、本校の教育活動は適正であると考えています。

今後とも時代に即した教育活動・学校運営を行い、**共育**(我々教職員は、多くの事柄を学生から学び教え、共に育む)活動の改善に取り組んでいく。

以上